

太宰府市俳句ポスト第百六回入選者

令和二年二月十二日～令和二年五月九日

選者 阿比留 初見

旧友と思ひ出語り春を待つ	東京都	蜂矢 愛
九博の森の静寂初蛙	太宰府市	福永 惠美
春の雨宮の静寂を深めをり	福岡市	岡村・礼子
都府楼の堀より翔てり春の鷺	愛知県	市川 克代
五分咲きの飛梅強き香を放つ	京都府	熊田知寿子
飛花落花政庁跡の広さかな	宗像市	藤崎由希子
境内の広さしみじみ春の月	太宰府市	有岡 和砂
宰府路へ心誘ふ梅日和	福岡市	倉本美紗子
苔寺の砂紋に映ゆる若楓	太宰府市	座親フミ子
太陽に溶けゆく梅の白さかな	筑紫野市	馬場三知子
梅が香を総身に纏ひ奥宮へ	太宰府市	吉田 秀子
青春を過せし里や梅真白	福岡市	大津 英世
大岩を越えて参拝春寒し	福岡市	西村 芳山
樹々の間の雲は急がず春浅し	那珂川市	池田ひさ絵
喘ぎつつ登る荒磴名草の芽	太宰府市	榊原 瞳
奥宮へ難所の磴や下萌ゆる	大野城市	岡井 由里
マスクでの集合写真十年ぶり	神奈川県	坂井 滯子
うめがえもちいいにおいだなはるやすみ	鹿児島県	手塚 宥名 九歳
梅の花ちいさくさいて日が照らす	福岡市	谷本 晴香 九歳
受験にねうかるといいなお姉ちゃん	北九州市	竹内 愛実 十一歳